

秋田県内のほとんどの医療機関で接種を受けられます。実施医療機関に直接予約のうえ接種を受けてください。

(生活保護受給者は無料です)

申込方法

医療機関によって料金が異なるため、市が助成する1500円を差し引いた金額となります。

自己負担額

平成20年1月31日まで

接種回数 1回

助成金額 1人 1500円

(接種料金が1500円未満の場合はその実費額)


市内インフルエンザ予防接種実施医療機関	盛岡外科医院	62-1101
北秋中央病院	62-1455	佐々木産婦人科医院 63-0105
としま医院	62-1267	国民健康保険合川診療所 78-3161
鷹巣病院	62-1210	佐藤外科消化器科医院 62-1420
奈良医院	62-1146	足田外科内科医院 78-3338
うעדクリニク	60-1055	たかのす今村クリニック 62-5655
藤原医院	62-2882	公立米内沢総合病院 72-4501
遠藤クリニック	63-0515	たむら内科クリニック 63-2700
毛利整形外科クリニック	69-5300	市立阿仁病院 82-2351
近藤医院	62-1155	津谷内科 62-2261

市民プール 11月の教室

お問い合わせ ☎62-5001

内 容	スキndaイピング教室		成人水泳教室	
	初級水泳教室	中級水泳教室	初級水泳教室	中級水泳教室
マスク・フィン・シュノーケルを使ってスキndaイピングを体験します(ポンペは使いません)	泳げない方から、もっと上手に泳ぎたいと思っている方まで、親切丁寧に指導します(同時開催)			
期 日	6、13、20、27	8、15、22、29	7、14、21、28	
時 間	14:00~15:00	16:00~17:00	14:00~15:00	
対象・定員	一般成人 5名	一般成人 5名	一般成人 各教室5名	
講習料	3,000円	3,000円	各教室 3,000円	
持 参	水着、水泳帽、ゴーグル、バスタオル			
内 容	上級水泳教室	水中健康教室	ストレッチング教室	ADL体操教室
	一緒に練習して大会出場を目指しましょう。細かいフォームも指導します	水中で気持ちよく全身を動かす。軽い体操や水中で歩行等を行います。アクアビクスもやります	身体の筋肉をバランス良く伸ばし、筋肉の緊張をほくして血液の循環を良くし、肩こり、腰痛の改善・予防をします	ADLとは日常生活動作能力のことで、歩く、立つ、座る動作の維持と向上、回復を目的とし、イスを使って安全に楽しく簡単にできる運動です
期 日	7、9、14、16、21、23、28、30	9、16、23、30	7、14、21、28	8、15、22、29
時 間	18:00~19:30	14:00~15:00	10:00~11:00	14:00~15:00
対象・定員	高校生・一般成人 月4回5名/毎回5名	一般成人 20名	一般成人 15名	自立している成人 15名
講習料	3,000円/5,000円	3,000円	3,000円	3,000円
持 参	水着、水泳帽、ゴーグル、バスタオル		運動しやすい服装、シューズ、タオル	
備 考	電話での申込みはできません。プール受付の申込用紙に必要事項を記入し講習料を支払ってください。(印鑑必要)/講習料の他に毎回入館料が必要です。(年間券・回数券も使えます)/各教室3,000円の講習料ですが2つの教室を申し込みの方は5,000円となります。			

お一人各教室1回無料体験ができます



市では高齢者の感染症予防のためインフルエンザ予防接種の一部公費助成を行っています。接種を希望される方は、かかりつけの医師とご相談のうえ、接種を受けられることをお勧めいたします。

接種対象者

接種日において満65歳以上の方

60歳以上65歳未満で、心臓・じん臓または呼吸器の機能等に身体障害者手帳1級程度の障害を有する方(事前に保健センターに申し込んでください)

実施期間

平成20年1月31日まで

接種回数 1回

助成金額 1人 1500円

(接種料金が1500円未満の場合はその実費額)

自己負担額

医療機関によって料金が異なるため、市が助成する1500円を差し引いた金額となります。

(生活保護受給者は無料です)

申込方法

秋田県内のほとんどの医療機関で接種を受けられます。実施医療機関に直接予約のうえ接種を受けてください。

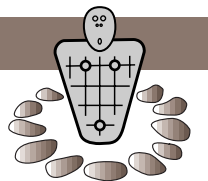
接種時に必要なもの

健康保険証、健康手帳

問い合わせ 市保健センター

☎62-6666

伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ 発足10周年を祝う



国指定・伊勢堂岱遺跡のガイドや保存、PRなどを進めているボランティアグループ「伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ」(佐藤喜美男代表)の発足10周年記念式典が10月26日、市内のホテルで開かれ、グループのメンバー、関係者らがこれまでの活動を振り返るとともに、世界遺産登録などに向けてさらなる取り組みを誓い合いました。

この10年間の活動は「一期一会」に尽きる(佐藤代表)

同グループは、遺跡の発掘や現地保存が決まり調査が始まったことをきっかけに、当時の鷹巣町の遺跡の保存や文化財のあり方を考えるため、平成9年7月に30人ほどの有志が参加して発足、これまで遺跡のガイドをはじめ、縄文まつりなどのイベントを開催し、遺跡のPRや保存・活用に努めてきました。現在は22人のメンバーで活動しています。

式典でははじめに佐藤会長が、「この10年間を一言で言う」と一期一会。伊勢堂岱遺跡を訪れた人、自分たちが研修で訪問した遺跡の関係者など、まさに人とのふれあいに尽きる。これからは遺跡に関わり、少しでもお役に立ちたいなどとあいさつ。



活動を振り返るビデオの上映や記念講演などで節目を祝った伊勢堂岱遺跡ワーキンググループの発足10周年記念式典

続いて、年間の活動を写真や映像で振り返るビデオ上映が行われました。発足当時、三内丸山遺跡など各地の遺跡、博物館を見学したときの写真や、伊勢堂岱遺跡の成り立ちを紹介するため、小学校児童が出演し縄文まつりで上演したワーキング制作の縄文祭礼劇のようすがナレーショ

ン入りで紹介され、特に発足当時のメンバーは、懐かしそうに当時の振り返っていました。

この後、同遺跡調査検討委員会委員長の小林達雄(国学院大学教授)による記念講演が行われました。

縄文文化は世界に通用する世界観を持っている(小林教授)

演題は「世界遺産としての伊勢堂岱遺跡」。小林教授は、縄文時代の幕開けは今から約1万5千年くらい前。その前の旧石器時代の大きな違いは、定住し、ムラを営むようになったこと(『縄文革命』)。この頃ヨーロッパでは農耕が行われていたが、狩猟・採集・漁労を3本柱として暮らしていた縄文人の生活が農耕文化と比べて劣っている、という見方は正しくない。自然を克服・対峙しようとしてきた西洋の文化と、共生しすぎない、などと、縄文文化の成り立ちを説明。

さらに、ムラを造ったことで、動物たちとは違うぞという人としての意識やことばが生まれ、それがストーンサークルなど記念物の造営につながった。このような縄文人特有のことばや世界観が現在の日本文化の底流を流れている、などと持論を展開しました。

その上で、縄文文化は、このように十分世界に通用する世界観を持っている。伊勢堂岱遺跡の世界遺産への登録に際しても、それだけの価値を有することを再認識してほしい」と訴えていました。

講演の後、ワーキンググループ副代表の伊藤武さんがボランティア活動を通してと題し発表。伊藤さんは「伊勢堂岱遺跡を知ってもらいたい、縄文文化を学びたい、という気持ちで活動が続けてきた。ガイドなども、最初は手探りの状態だったが(調査検討委員会の)先生方の指導でこれまでやってこれた。子どもたちと一緒に作り上げた縄文祭礼劇も、良い思い出になった」と、活動を振り返っていました。

世界遺産には「北海道・東北の縄文遺跡群」として申請

なお、世界遺産登録については、青森、岩手、秋田の北東北3県と北海道でつくる縄文遺跡群(世界文化遺産登録推進会議)が今年6月、世界遺産登録を目指して文化庁に提案する15の遺跡群を、北海道・北東北の縄文遺跡群」と仮称し運動を展開することを確認しています。